

★チャレンジ！夢に向かって★

～ふるさとを愛し、一人一人が「か・が・や・く」国見の子の育成～

大切にしたい読み聞かせ！！

5月10日（金）と17日（金）の朝読書の時間に1・2年生の教室で大型絵本の読み聞かせを行いました。10日（金）は工藤ノリコさんの絵本「ノラネコぐんだんパンこうじょう」、17日（金）はたむらしげるさんの絵本「ありとすいか」を読みました。2年生の〇〇〇〇さんは、どちらの絵本も読んだことがあり、すごいなあと感じました。



よく「『つ』がつく歳までは読み聞かせ」

といいます。これは「ひとつ、ふたつ、みっつ…ここのつ」の「つ」です。つまり、9歳までは読み聞かせによる効果がとても高いことを表しています。絵本の読み聞かせは、教師が「読む」子どもが「聞く」という一方通行のようなコミュニケーションですが、絵本を通して教師と子どもの関係を深めてくれます。読み聞かせの時間は、教室という教師と子どもだけの空間の中で、教師と子どもと一緒に絵本という無限の世界の旅をする時間といえます。

私は、小学校では読み聞かせを大切にしたいと考えています。そのきっかけとなったのは、「クシュラの奇跡－140冊の絵本との日々」という本を読んだことからです。この本は、視力や聴力・知能・運動能力・内臓機能などに複雑な障害をもって生まれたクシュラという女の子が、生後4か月から母親が始めた絵本の読み聞かせにより、5歳になる頃には健常児の平均以上の知能と豊かな感情をもち、走り回ることさえできるようになりました。この奇跡の成長は、絵本に触れたからだといわれています。

読み聞かせは、子どもの感情を豊かにしたり、精神状態が落ち着いたりする効果があるとされています。また、語彙が増えるのはもちろんのこと、物語を通して様々な出来事や感情を疑似体験することで、人の心を感じられる力や自分の考えを言葉にする力、物事に対する見方や考え方が身に付き、環境が変わり様々な出来事が起きた時にも、柔軟に対応していけるようになるといわれています。秋田県内では、中学校でも先生方や地域ボランティアによる読み聞かせを熱心に行っている学校もあります。本校では、6月3日（月）から読み聞かせボランティア「ふれあいほっとルーム『虹』」による紙芝居読み聞かせを実施します。

お家での絵本の読み聞かせは、子どもと心を通わせる大切な時間になると思います。お忙しいとは思いますが、読み聞かせの時間や子どもと一緒に読書する時間を設け、感想を共有してみてもはどうでしょうか。もし、絵本や本が家にないという場合は、学校図書館の本を御活用ください。直接御来校いただいてもいいですし、お子さんを通じて、お貸しすることもできます。